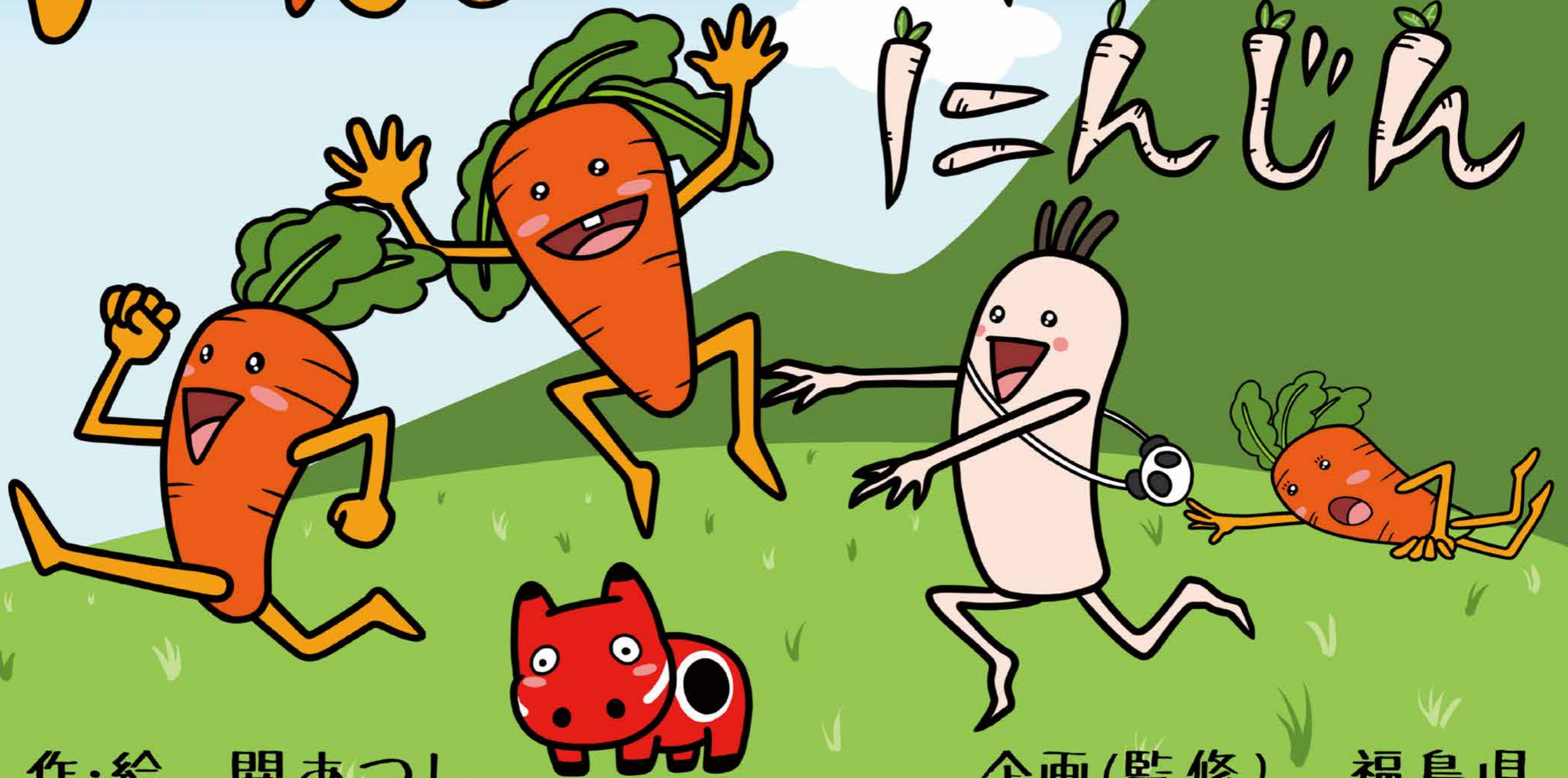


にんじん と おたね  
にんじん



作・絵 関あつし

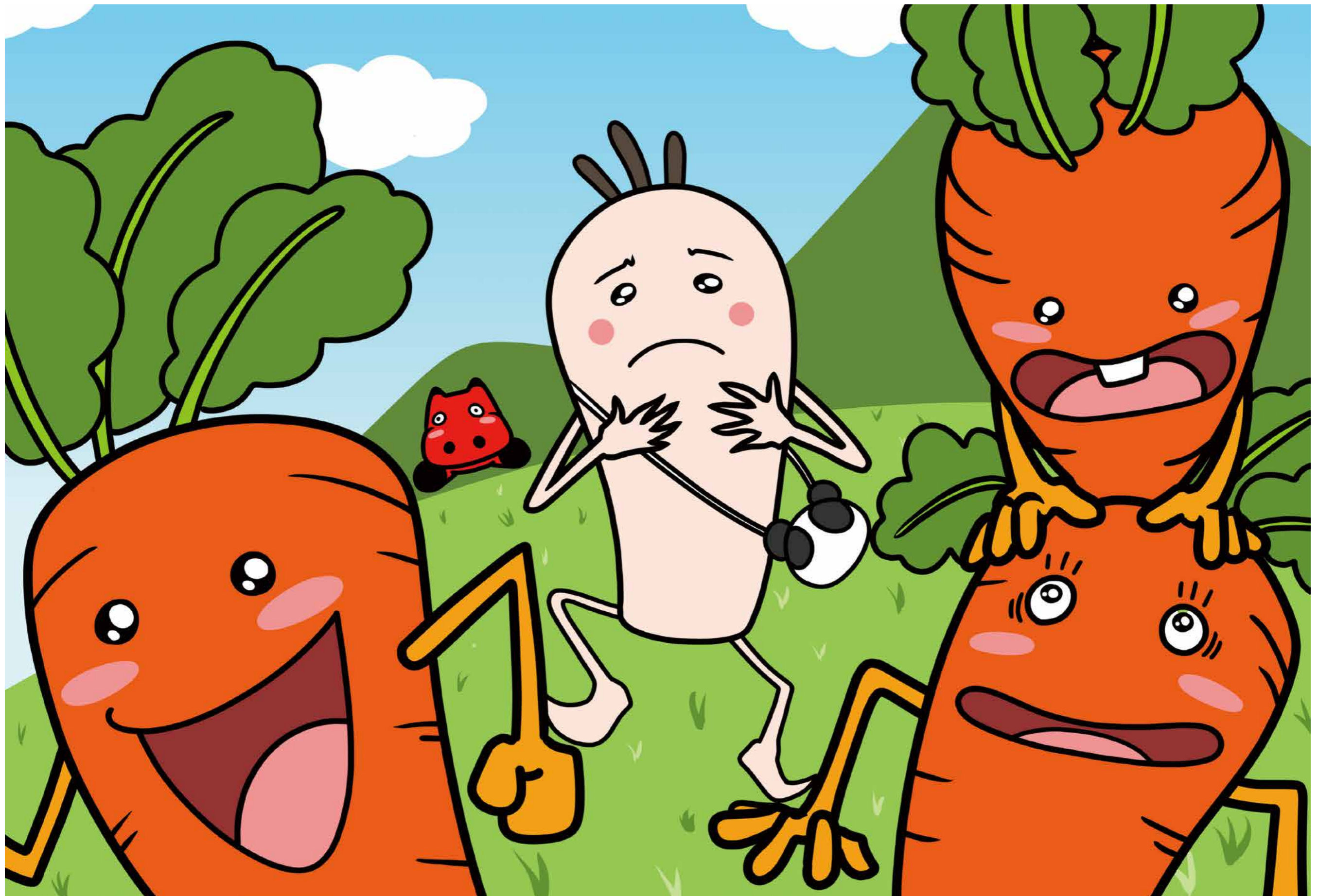
企画(監修) 福島県



楽しそうに遊んでいるニンジンたち。  
しかし  
一人だけ浮かない顔のニンジンがいました。

『みんなは仲良くしてくれているけど、  
僕だけ形も違うし、色も違う…  
どーしてなんだろ?』

他のニンジンよりも、細くて白いニンジンは  
元気がありませんでした。



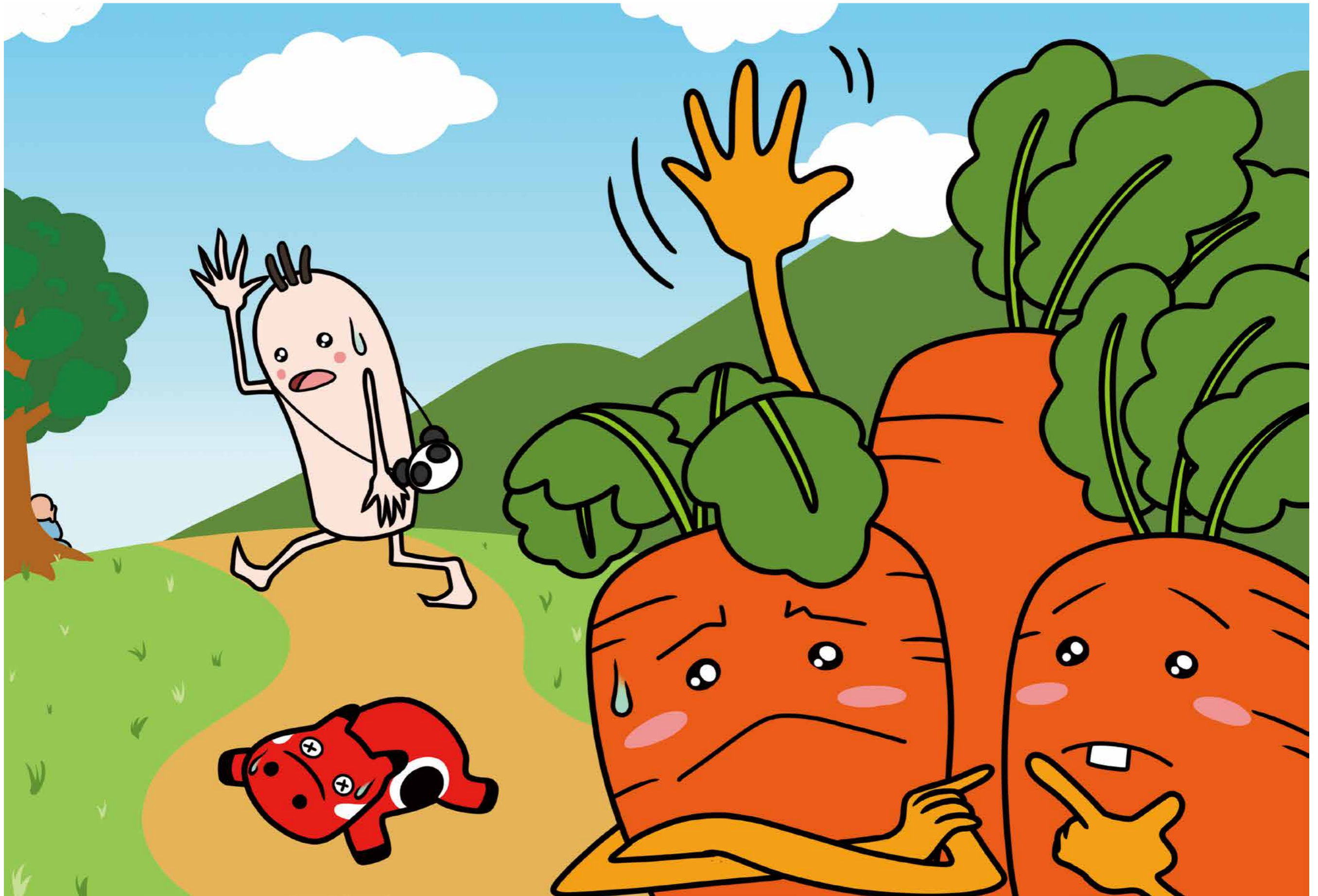


他のニンジン達が元気がない  
細くて白いニンジンを中心に心配して声を掛けます。

『どーしたんだい？  
何か嫌なことでもあったのかい？』

『いや、そんなことはないよ。  
ちよつと考え事をしていただけさ。  
みんな、悪いけど今日は帰るね。』

細くて白いニンジンにはトボトボと、  
一人で歩き始めました。  
他のニンジンたちは心配でたまりません。





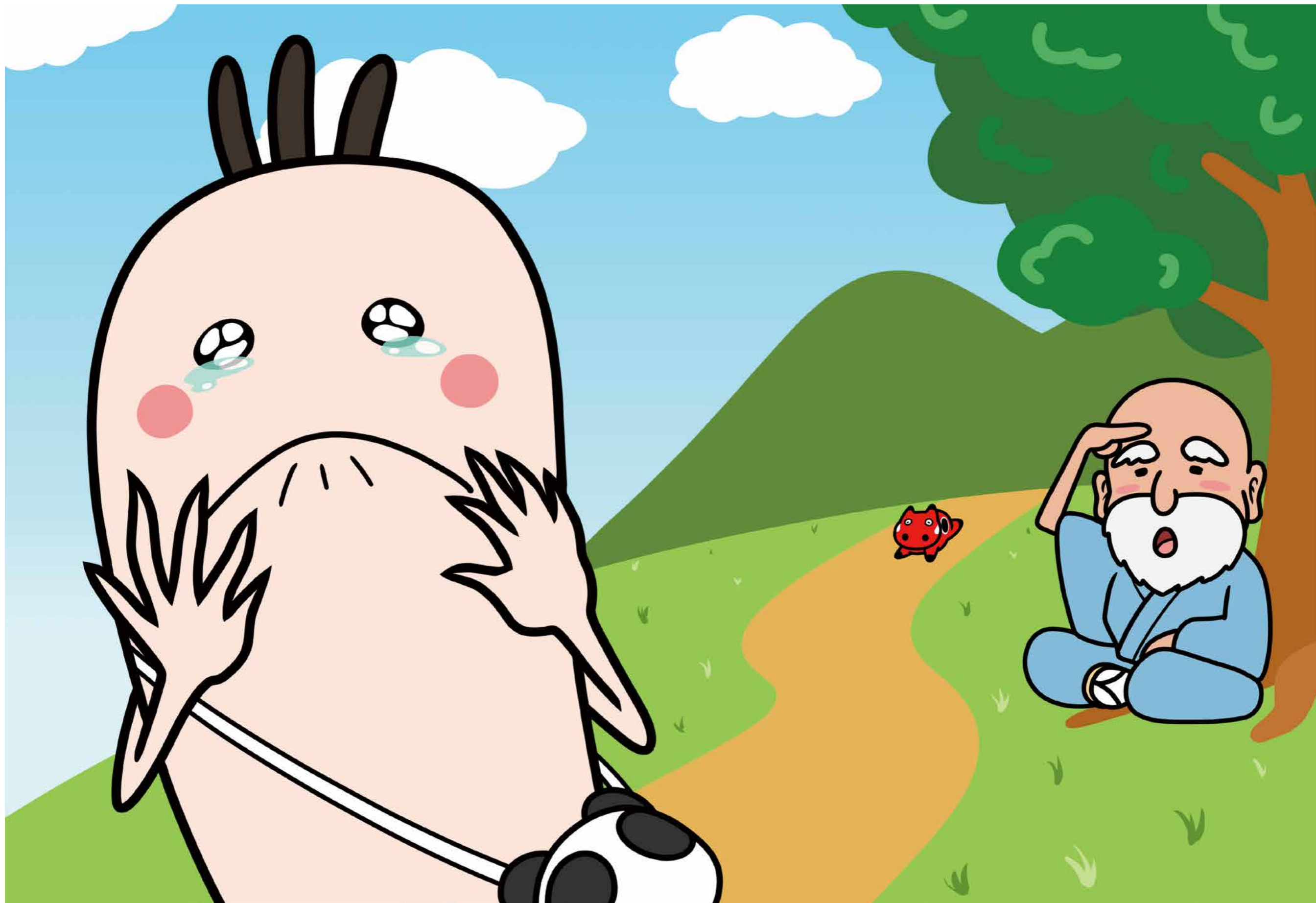
『みんなは太くてがっしりしているし、色だって鮮やかなオレンジ色だ。それに比べて僕だけは、細くてひよろつとしていて、色だってけして鮮やかとは言えない白。どーして僕だけみんなと違うんだろ？僕は出来損ないのニンジンなのかな？』

細くて白いニンジンは、涙をこらえながら歩いていました。

すると木陰で休んでいたおじいさんが声を掛けてきました。

『珍しいの、』

おたねにんじんじゃないか？』





『おたねにんじん？』

おじいさん、僕は普通のニンジンだよ。』

細くて白いニンジンか答えました。

『がっはっはっは〜』

おじいさんは笑いながら答えました。

『何を言ってるんだ？』

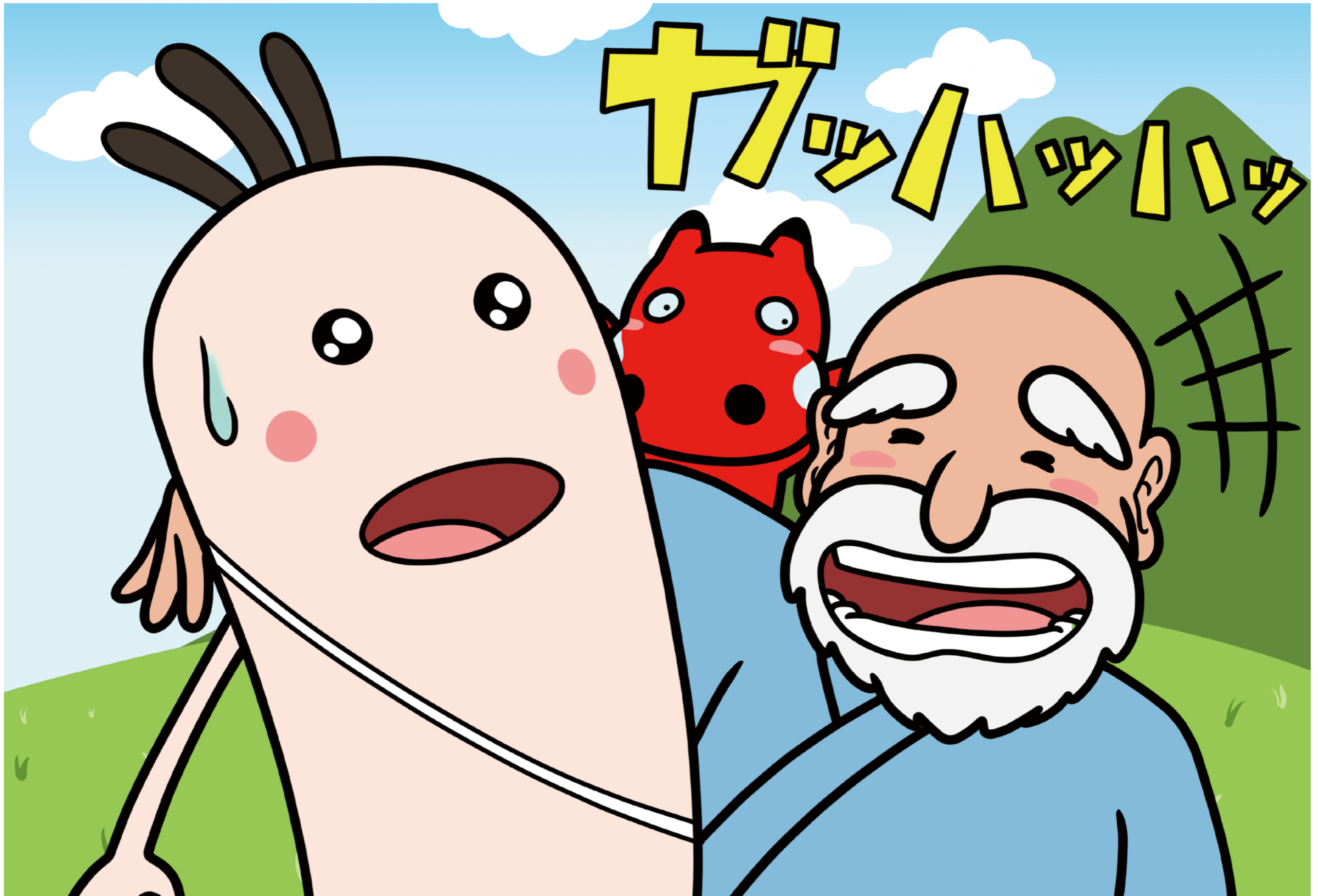
君は立派なおたねにんじんじゃよ！』

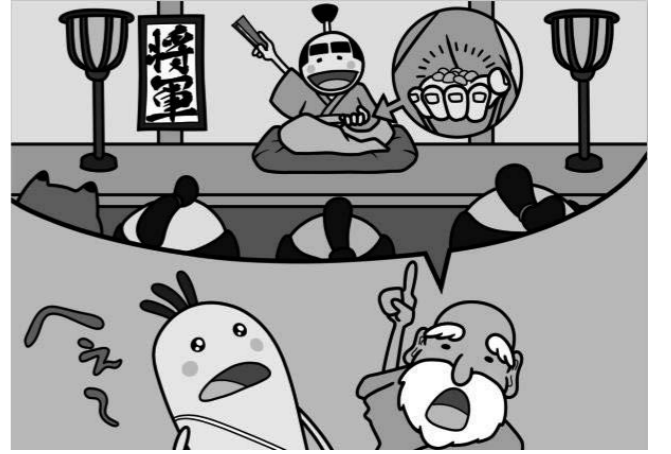
『おたねにんじん？』

おたねにんじんっていったいなんなの？』

おじいさんは嬉しそうに話し始めました。







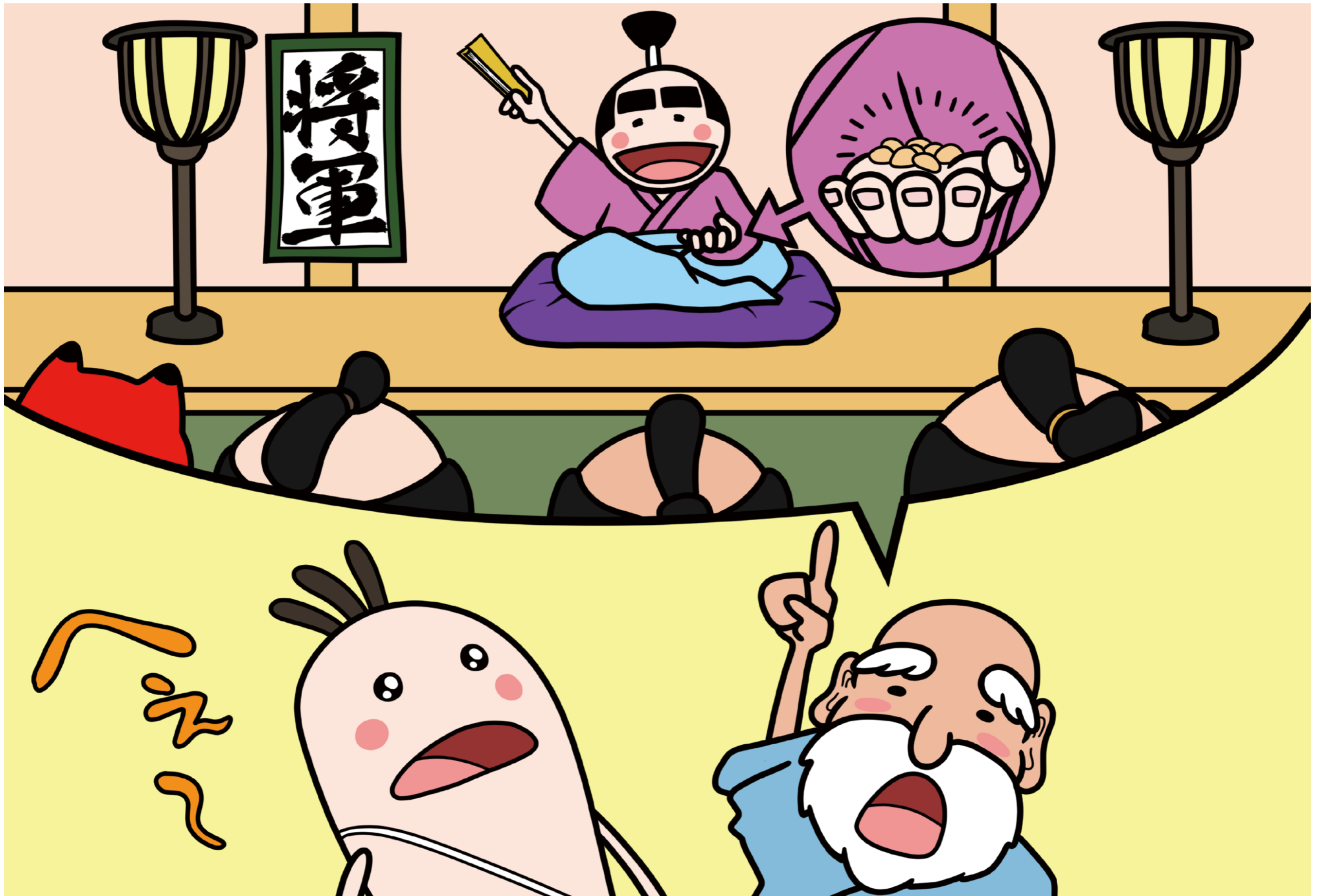
『むかーしむかし、江戸時代のお話じゃ。

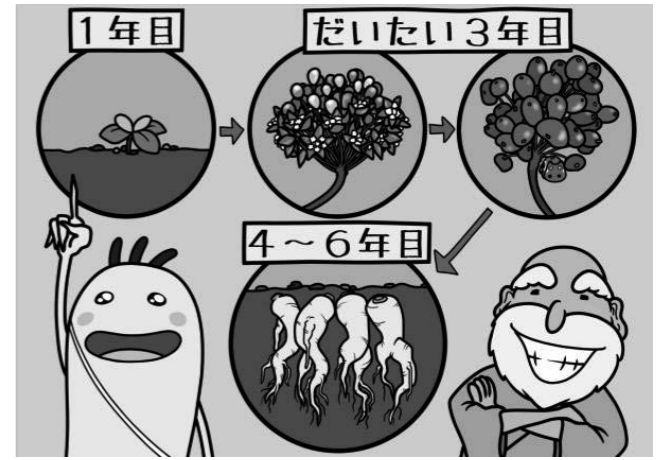
えらーい將軍様がとっても体にいいニンジン  
の種を全国に配ったのじゃ。

その種から出来たのがおたねにんじん。  
えらーい將軍様から頂いた種だったので、

みなその種を尊敬を込め  
丁寧（おたね）と呼ぶようになった。  
だからおたねにんじんと言うんじゃよ。』

『へーえ、  
將軍様から頂いた種から生まれたニンジン  
なんだね。』





おじいさんはまだまだ話続けます。

『それだけじゃないぞ！』

おたねにんじんは収穫できるようになるまでとつても時間がかかるんじゃ。

種を植えて芽が出るまで1年。

花が咲くまでに3年。

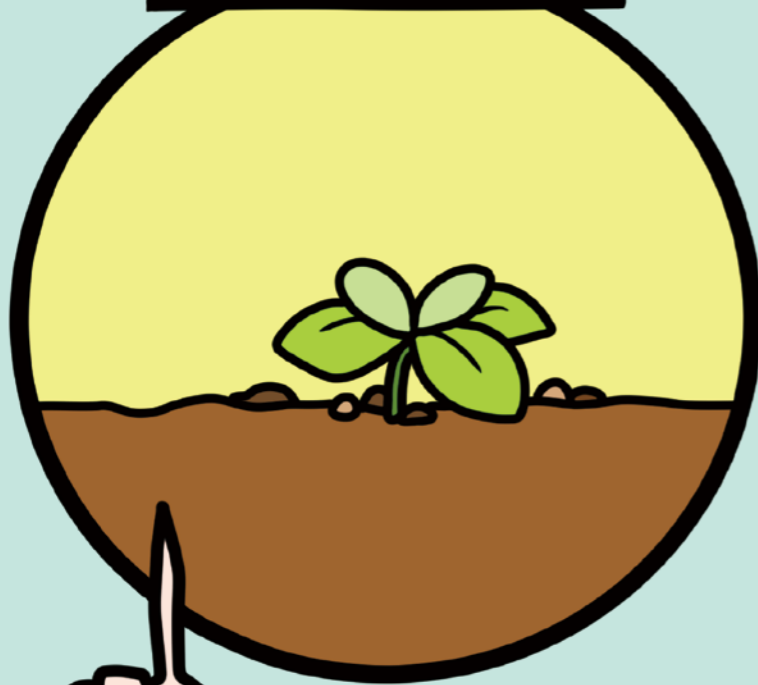
りっぱなおたねにんじんになるには

種を植えてから4〜6年かかるんじゃ！』

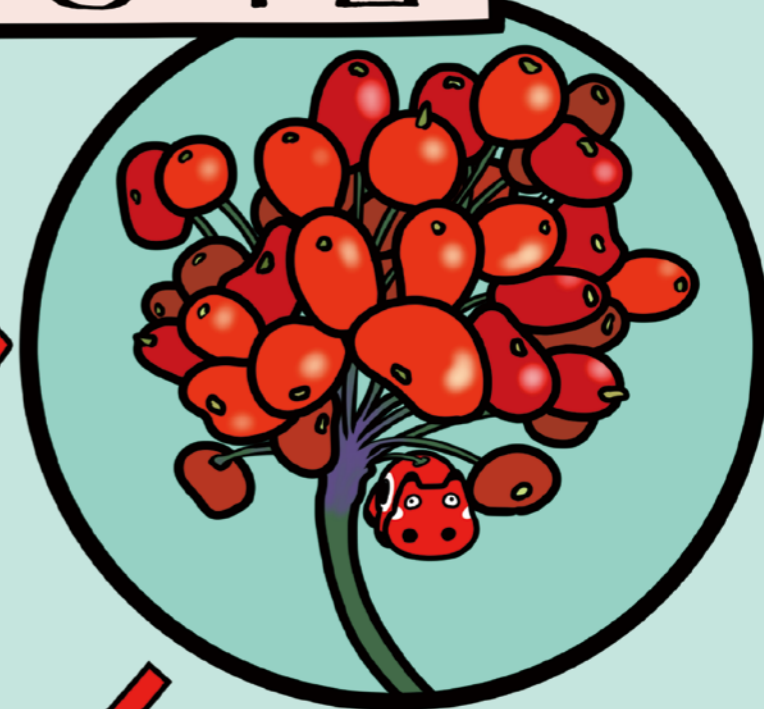
『そんなに時間がかかるの？』

細くて白いニンジンが驚きました。

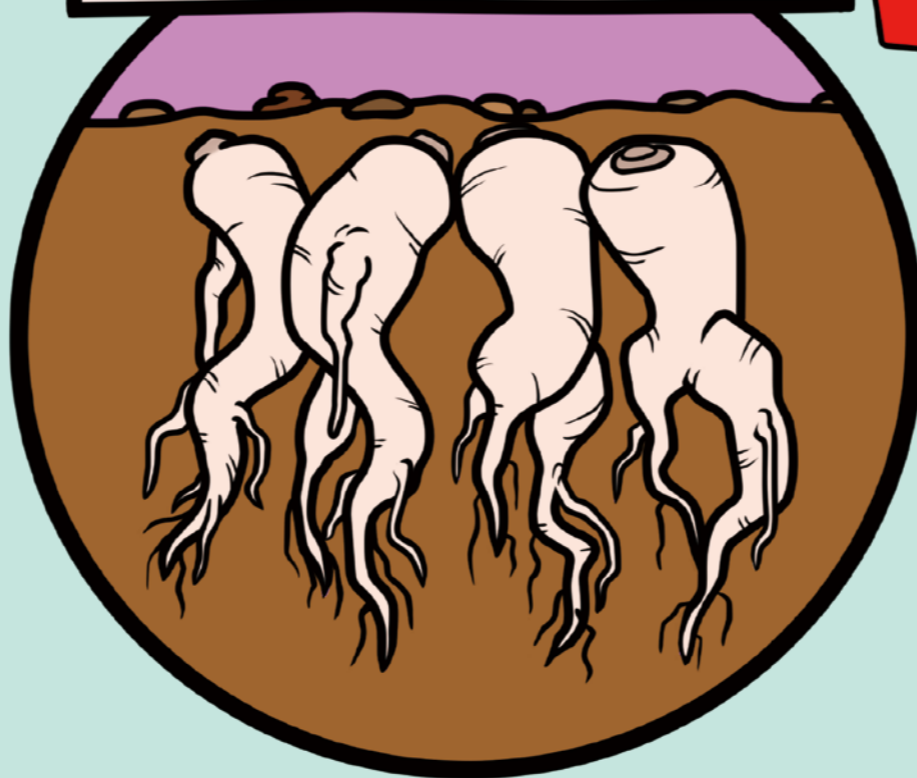
ねんめ  
1年目



ねんめ  
だいたい3年目



ねんめ  
4~6年目





おじいさんは誇らしげに話します。

『今、日本で作っているのは長野県、島根県、  
そしてここ福島県の会津地方だけなんじゃ  
ぞー！』

『とっても歴史があつて  
珍しいニンジンなんだね。』

細くて白いニンジンは

目を輝かせながら言いました。

ながの けん  
長野県

しまね けん  
島根県

ふくしま けん あいづ  
福島県 会津





『うむ！  
しかもな昔から体の弱った人や  
病人の元気を補うために  
大切に使われていた、  
とっても貴重なニンジンなんじゃ。』

『じゃあ、  
僕は出来損ないのニンジンじゃないんだ  
ね？』

細くて白いニンジン  
は涙を浮かべながら  
言いました。

『出来損ないのもんか、  
昔から皆に愛されて  
いる立派なおたねにん  
じんじゃよ。』

おじいさんは、細く  
て白いニンジン…  
いや、おたねにん  
じんに優しく語り  
かけました。





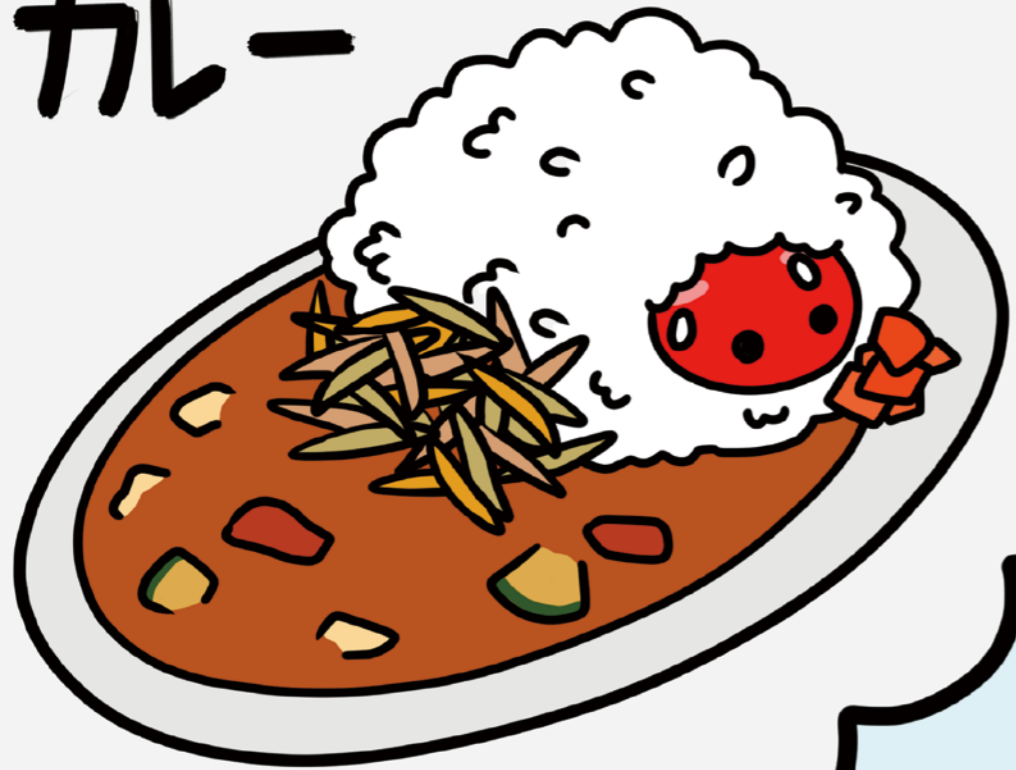


『おじいさん、ありがとうございます。  
お礼に、僕をかじってください。  
疲れて休んでるおじいさんを  
元気にしたいんだ。  
おたねにんじんを食べると  
元気になるんでしょ?』

『そーじゃ、元気になるぞ！  
だが、生で食べるよりもお茶にしたり、  
天ぷらやカレーにして食べるのが  
おススメじゃ。  
何より、君と話していたら  
疲れが吹っ飛んだよ。  
君は人を元気にする特別な力を持っている  
のかもな。  
がっはっはっは！』

そう言いながらおじいさんは帰って行きました。

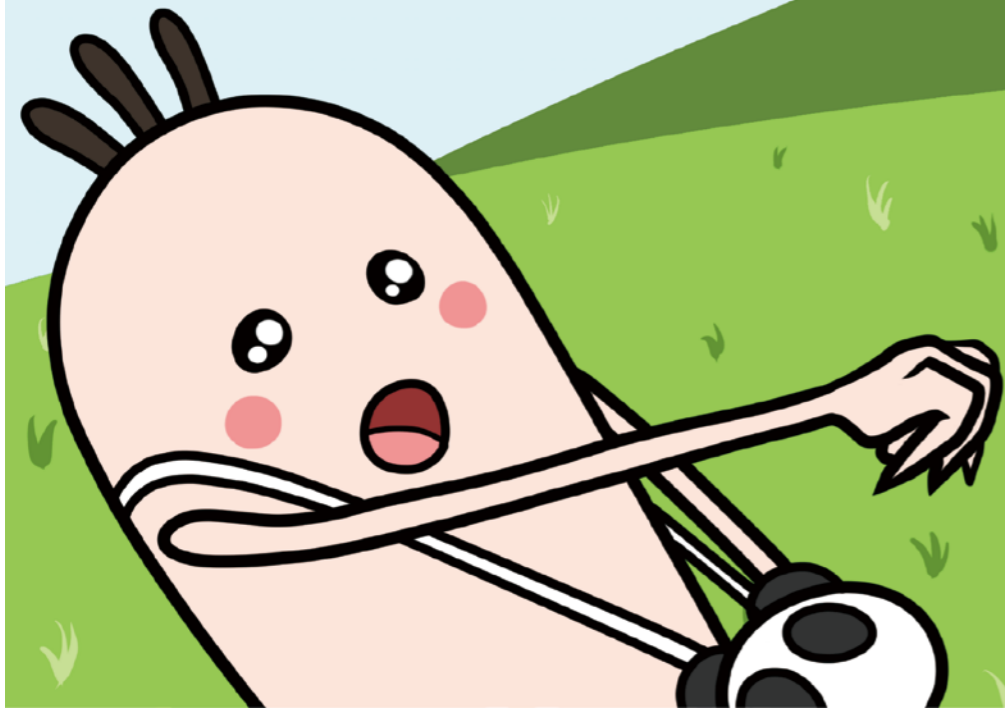
カレー



お茶<sup>ちや</sup>



てん  
天ぷら



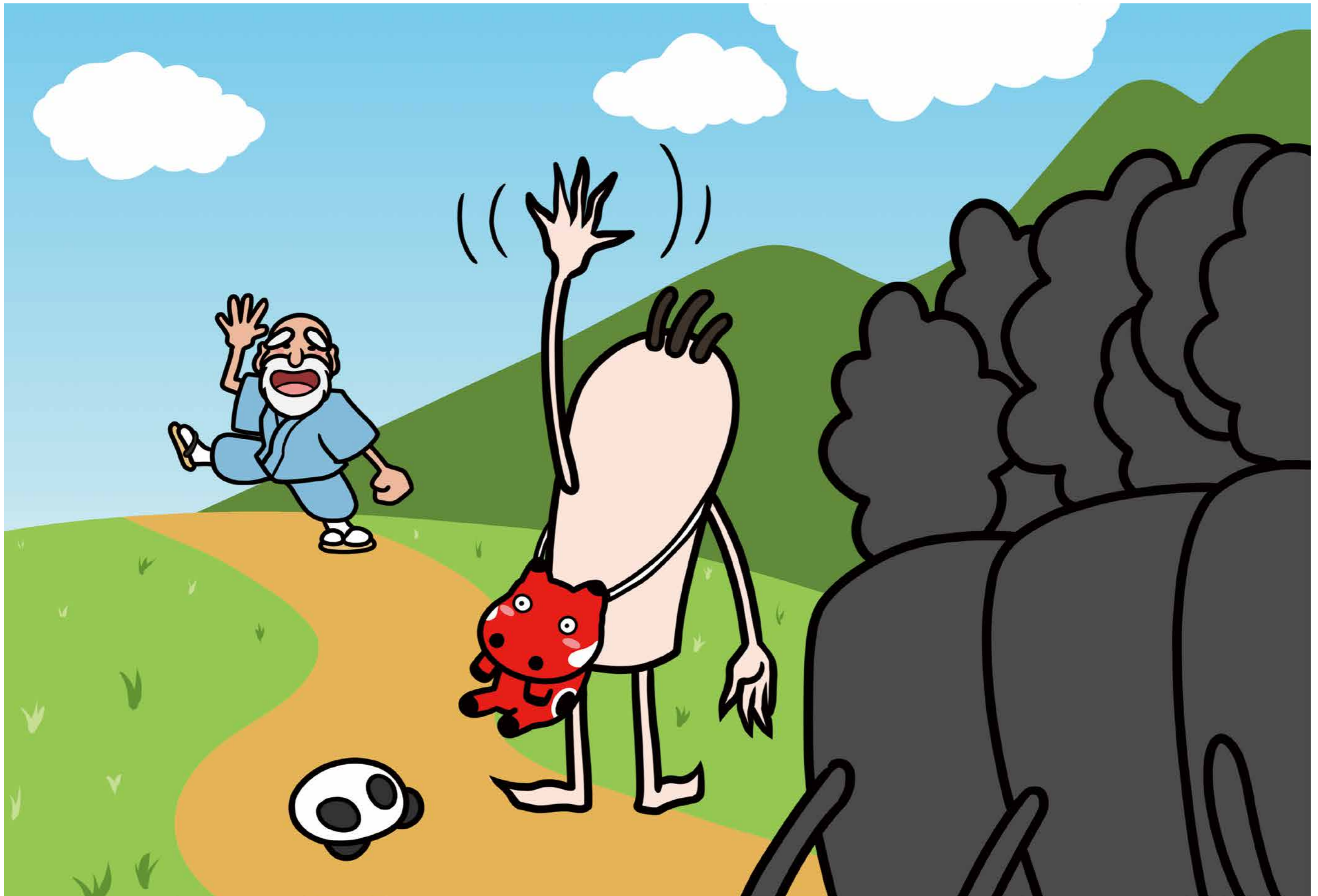


『おじいさん、ありがとー!』

おじいさんを見送りながら  
おたねにんじんは思いました。

『僕はおたねにんじんだ!  
これからは自信をもって  
たくさんの人達を元気にしていこうぞ!』  
すると後ろから声が聞こえてきました。

『おーい、おたねにんじん!』





声をかけたのはニンジン達です。

『話は聞いていたよ！』

君はすごいニンジンだったんだね！』

『おたねにんじんが友達で』

僕たちは誇らしいよ。』

『これからもよろしくね、おたねにんじん！』

ニンジンたちは元気になった

おたねにんじんを見て喜びました。

『みんな心配してくれてありがとう。』

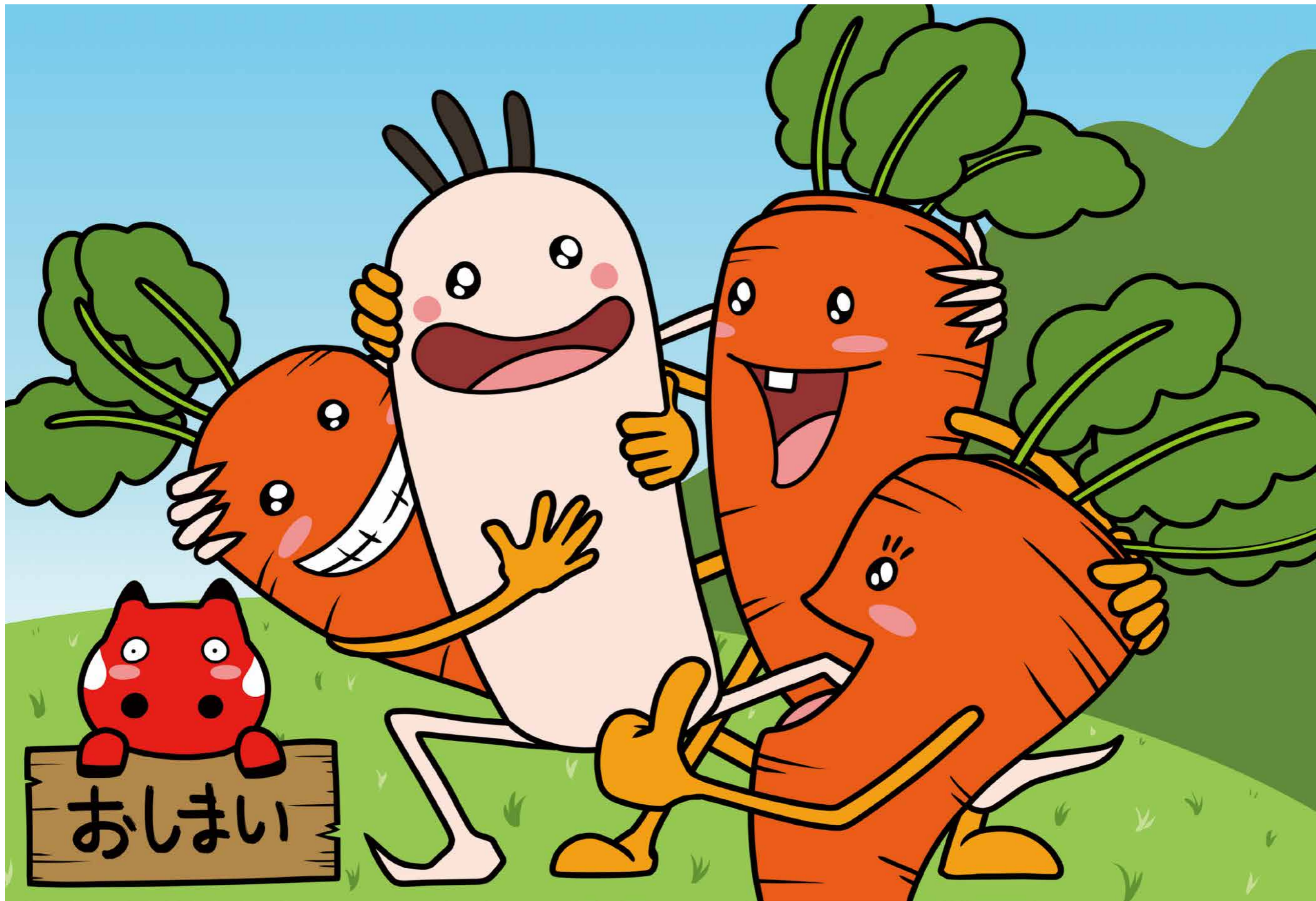
これから一緒におたねにんじんのカレーで

も作らないかい？』

『おお！いいね！みんなで作ろう！』

こうして、おたねにんじんとニンジンたちは仲  
良く暮らしましたとき。

めでたし、めでたし。





ある日

会津の山々に囲まれた自然豊かな場所で  
ニンジンが楽しそうに遊んでいました。

鮮やかな緑の野原で  
ニンジンたちは元気いっぱい跳ねながら  
お友達と追いかけています。

『待て〜!』  
『やーだよ、絶対に捕まるもんか〜!』

ニンジンたちはみんなとっても仲良しです